

令和3年度 第12回 昭島市社会教育委員会会議・要点録

開催日時／会場 令和4年3月22日（火）午後7時00分～8時45分 204会議室+Web会議
出席者 谷部議長、松本副議長、稲垣委員、小原委員、齋藤委員、指田委員、
二ノ宮リム委員、信國委員、吉村委員
欠席者 吉川委員
事務局 川崎社会教育係長、来住野社会教育主事

1 開 会

<配付資料>

資料1 令和4年度生涯学習部における主要事業について

資料2 対話から地域力を育む社会教育 建議（案）

- ・昭島市月間行事予定表4月（メール配信のみ）
- ・とうきょうの地域教育 No.145
- ・社教連会報 No.90
- ・あきしまの青少年 No.266

2 報 告

（1）令和4年度生涯学習部における主要事業について（資料1）

※資料について、事務局より説明

（2）その他

委 員 令和3年度第2回青少年問題協議会委員は書面開催になった。昭島警察署長の異動があったとのことだ。令和4年度昭島市青少年健全育成方針についてどのように承認するか検討された。昭島市青少年善行表彰、青少年健全育成協力者表彰についてだが、善行表彰は個人16名、団体1名、協力者表彰が7名だった。子ども若者未来対策推進計画づくりに対するアンケートの結果について、これから正式な報告書が出る予定。

3 議 題

（1）昭島市健康づくり推進協議会の委員の推薦について

※推薦者を決定（信國委員 青少年問題協議会委員兼務）

（2）令和4年度昭島市小学生国内交流事業運営委員の推薦について

※来月の議題とする

4 協 議

（1）第31期社会教育委員会建議「対話から地域力を育む社会教育」について（資料2）

議 長 建議素案の流れはこれでよいと思うが、提言の部分をしっかり取りまとめていきたい

ので忌憚のない意見をお願いする。

委員 資料2の流れ、構成としては良いと思う。提言の素案も趣旨はこれでよいと思う。

議長 自治会関係の話になるが、4~5年前に自分が自治会の役員をやっていた時に講習を受け、難しいと感じた。その後自治会関係のホームページの更新などはスムーズに進んでいるのだろうか。各自治会のホームページについては更新しているところしていないところで差があるように思うがどうか。ICTの活用という面でお聞きしたい。

委員 当時もそういうことができる若手の広報担当者がいるところは活発に更新していたが、自治会の役員は様々な事情で年々変わるため、引き継いだ方が同じように対応できるかわからないというのが現状。

議長 ICTの活用といっても、団体の状況によって継続するということが難しい状況であることがわかった。また、コロナ禍の2年間、定例会議はほとんど開かれていないが、本部役員のメンバーは集まって、回覧板だけの情報交換だった。高齢者の人たちもオンライン会議などに参加できるような環境づくりとして、最近はどんな人もスマートフォンを持っているので、スマートフォンの使い方の講習会があるとよいのではないか。子供たちは学校でタブレットを使う生活になりつつあるので、子供たちはそれらを活用することが当たり前の社会になってくるが、団塊の世代はなかなか新しいことにチャレンジすることを躊躇してしまっているように感じる。そういう手段を得ることで、災害などの際にもICTを活用できるのではないか。

委員 現在「対話」と「ICTの活用」の2本立てで案が出ているわけだが、新しいものに対する抵抗感が特にシニア層にあるというのは確かにそうだと思うが、PTAの会議などでも、Wi-Fiのないご家庭があるということなどもハードルになっていて、そのような環境を持っていない方への配慮を周りができるような理解や知識の共有が必要だと思う。しかし、生身の対面に勝るものはないということも思う。オンライン会議に慣れている人たちばかりだとよいが、オンライン上でいろいろな方がいる中では、仲良くなることも、会ったこともない人たちといきなり話をする 것도難しい。オンラインの活用は特に地域の中では補完的なものであると言えるのではないか。可能性や時代に合わせた活用ができれば、みんなの可能性が広がるという意味で、できないと思っている人たちを奮い立たせるというよりは、周りが配慮して参加しやすい場をつくるほうが必要ではないかとも思う。今回出していただいている建議の提言には対話のよさについても入れていきたい。

委員 できそうな人が講師で、困っている自治会に教えるということもしたが、若い方とマッチングできたらよいのではないか。

委員 ICTと若い人たちへの期待について話題になっているが、若い人でもICTを使える人、使えない人の差がある。全く使えない人も一定数いる。若い世代だから使えると捉えないほうがよい。若い人たちが地域活動から離れているというのは、仕事や生活スタイルが変わっていく中で、難しくなってきたことがあると思う。若い人たちにとって、教えてほしいといわれることで、地域活動をしなくてはならない、さらに加えてICTの活用のしかたを教えなくてはならないとなると、かえってやるが増えてしまい、地域活動から離れるきっかけになってしまうのではないか。若い人たちに教えてもらっ

て、上の世代の人たちが自分たちでできるようになればよいが、若い世代の負担が減らなければ、根本的な課題の解決にはならない。

委員 第2章であきしま会議にフォーカスして、具体的なことをもう少し書いてもいいのではないか。対等な関係をつくり、そこから何かが生まれるというのが対話だと思うが、例えば、あきしま会議が高校生ボランティア「未来守」の発足のきっかけの一つだったということもある。あきしま会議の方法にも関わってくるが、具体的な動きにつながっていくことを支えられるようになればよいと思う。たまたま気候変動の問題に市民会議で提言をしていこうという「脱炭素かわさき市民会議」の話聞いた。川崎市において、市の脱炭素社会づくりへの計画策定に先立ち、無作為抽出を基礎に選ばれた75名の市民が、「脱炭素かわさき市民会議」に結集して熟慮を繰り返し、「市民提案」をとりまとめ、市長に提出した。この会議参加者の選出は無作為抽出されたものなので、関心があるなしに関わらず、年代なども関係なく直接手元に案内が届くわけだが、その中から参加してもいいという方が集い、年に何回かの会議を実施したようだ。無作為抽出で人が来るということもわかった。参加された人たちは、もともと気候変動について話し合いたかったわけではないと思うが、皆さん熱心に話されていた。機会があれば話したい人はたくさんいるし、安心して話せることが保障されている場であれば、皆さん話す。また、この例のように話されたことが提言になり、今後、市の施策に盛り込まれていくのかもしれない。ヨーロッパなどでは、市政にそれらがどれくらい反映されるかについて市民の団体が継続的に評価していくという動きも生まれている。行政と対等な関係に市民がなれるような力をつける場にもなっていて、あきしま会議も対話の場づくりであると思うので、市民のネットワークとなり、いずれ行政に市民の意見をつなげていけるようになればと思う。

委員 何かに属していないと参加しにくい。よそから入ってきたなどの理由でつながりを持っていない人もいる。その人たちの中にも、いろいろなスキルを持っている人たちがいて、この昭島に住んでいる。そういう人たちにも出ていただけるような方法、先ほどは無作為というお話があったが、なにかいい方法があればと思った。ボーイスカウトも指導者が様々な事情で抜けていくこともあり、昔やっていたとか、昭島に他の地域から移動してきた経験のある人たちがうまくつながるといいと思うことがある。ネットワークがあれば、いろいろな人と交流でき、その人その人の特性を活かした活動につなげることもできる。お子さんがいれば、子どもを通して地域とつながれることもあると思うが、そういうものもなければなかなか地域とつながることもできない。いろいろな人たちが出てきやすい場であればよいと思う。

(2) 市民のニーズを活かす・つなげる あきしま会議について

委員 私自身が市民活動やボランティアを積極的にしているので、意図的に参加しない、もしくは物理的に参加できない人たちが、どうだったら参加できるのかを聞いてみたい。無作為抽出だと参加できないけれど意見は言いたいという方たちを巻き込むにはいいのかもしれないと思ったが、私たちがいくら「面白い」と言っても、参加できない方たちの気持ちにならないと、活動を活発にさせるとか活性化させるということは無理な

ような気がするので、どこが問題なのか自分の活動を振り返ってもよくわからなくなっている。

委員 興味はあるけれどできないというのは、何をしているのか見えてこないからではないかと思う。一度参加するとまた参加しなければいけないのではないか、自分の仕事に支障が出てしまうのではとか、どのくらい関わらなければならないのか、どういうことをするのかなど外からではわからない。役割を担いたくないとか意見を言いたい・言いたくないとかというよりももっと前の段階で、「よくわからない」というのが高いハードルになっているのではないか。

委員 先の川崎の市民会議だが、案内を受け取った人の中には、市民活動に関わったこともなく、むしろ怪しいと思ってしまったが、参加してみてとてもよかったという方がいらっしやった。そういう方の話を聞いていると、きっかけがないということが大きいと思う。それこそPTAなどで巻き込まれていくと、きっかけができてそこからいろいろな活動に入っていくということもあるが、そうでもなければなかなかきっかけがない。私の住んでいる地域は比較的子供会活動が活発で、同じ学区の中でも温度差はあるが、子供会につながっている人どうし、PTAの本部役員になる率も高い。人のつながりで活動が繋がっていくという面もある。出会いの場をつくる必要はある。あきしま会議でも印象的だったのは、お子さんもいらっしやらないし地域活動に参加する機会もなかったけれど、何かのきっかけで参加したいと仰っている方がいらっしやったこと。

委員 私があきしま会議に参加したときは、よくわからないまま誘われての参加だった。私の場合は、面白そうだから出てみようと思えたが、確かにそこでひるむ人もあると思う。もう少し「何のためにしているのか」わかるとよいかもしいない。参加する人にとってベネフィットもわかるとよい。私の場合は、昭島で活躍している人たちがたくさんいることを知れたことだったので、あきしま会議に参加した人たちの感想を集めたものを初めて参加する人に伝えるとよい。何かをするにしても、何かをしなくてはいけない、時間通りにやらなければならないではなく、ボランティア精神が旺盛であれば行ったところで楽しめるということもある。参加した人たちも新しい仲間ができる、新しい知識や人のつながりを得たり、その中で自分の役割・仕事を見つけたりする。先ほどの話で若い人に教える部分だけを強調してしまうとその人の時間とエネルギーを使うだけになってしまうが、その人が何かを受け取るような仕組みにすると、もうちょっとかかわってみようかというようなことになってくると思う。双方が楽しめるように工夫する、例えば情報交換するなどできるような場をつくることも大事だ。あきしま会議も「来てよかった」と思えたので、その部分をもっと発信するとよいと思う。

議長 それでは、本日はこれで閉会とする。

次回

4月28日(木) 午後7時より 202 会議室+Web 会議

5月26日(木) 午後7時より 301 会議室+Web 会議